

「井上陽水」と「サザン」「ユーミン」「中島みゆき」

「井上陽水」がフォーク世代の始まりである。吉田拓郎もいたけれど、ギターでつま弾きたいと願ったのは断じて井上陽水だった。

「夏祭り」井上陽水作詞・作曲
十年はひと昔 暑い夏
おまつりはふた昔 セミの声
思わずよみがえる 夏の日が
ああ今日はおまつり 空もあざやか
自転車のおしろには 妹が
ゆかた着てすましてる かわいいよ
もらったおこづかい なくすなよ
ああ今日はおまつり 早く行こうよ
綿菓子をはおばれば すぐ溶ける
友達もみんないる 笑い声
道には並ぶ店 オモチャ売り
ああ今日はお祭り 何を買おうか
十年は一昔 暑い夏
故郷はふた昔 夏祭り

ギターを買って、フォークソング集の本も買って、ひたすら練習したスリーフィンガーだった。

やがて、陽水は、メジャーの階段を昇り詰めていく。

高校生から、大学生になると、巷にはサザンの勝手にシンドバットが流れ、ユーミンの卒業写真が流れた。中島みゆきの時代も流れた。1979年に大学1年になった。6月の「文学界」新人賞は、村上春樹の「風の歌を訊け」だった。角川書店の社長が角川春樹で、村上龍と角川春樹が一緒になったような名前だなあとと思ったのを覚えている。

高校2年生の群像の新人賞は、村上龍「限りなく透明に近いブルー」で、その後芥川賞を取り、高校3年の時の芥川賞は、宮本輝の「蛍川」だった。そののち、センター試験にも出たのを覚えている。

大阪の川に浮かぶ船を住まいにしているきっちゃんという子どもが、船の甲板を走るかたに火をともし描写があったのを鮮明に覚えている。(つづく)

